一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2025 年度　第 3 回　国際交流委員会
議事次第

日　　時：2025 年 11 月 25 日（火）持ち回り開催
回答期限：2025 年 11 月 28 日（金）17 時
委 員 校：兵庫県立大学(委員長校)、神戸市外国語大学(副委員長校)
明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、関西学院短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭大学、神戸女学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、流通科学大学　　計 26 大学

Ⅰ．協議事項

1．2025 年度国際交流委員会自己評価（案）について　（資料 1）
標記に関し、森理事長から各事業委員会に、資料 1-1 のとおり依頼があった。資料 1-2 の「2025 年度国際交流委員会事業 自己評価（案）」について審議。

Ⅱ．報告事項

1．全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて　（資料 2）
標記に関し、2025 年 8 月 30 日（土）、31 日（日）に神戸学院大学にて開催し、461 名が参加。国際交流委員会で募集した留学生が学生ステージに出演した。流通科学大学よりミャンマー人留学生 8 名による伝統舞踊、芦屋大学より中国人留学生が二胡演奏、バングラデシュ人留学生が聖典コーランの詠唱を披露した（各 1 名）。各プログラムの詳細は、資料 2 の「第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム　報告書」のとおり。

2.「ミャンマー　震災から半年を振り返る」について　（資料 3）
標記に関し、2025 年 10 月 3 日（金）に流通科学大学にて同大学、神戸市外国語大学、神戸市看護大学で共催し、72 名が参加。詳細は、資料 3 の「ミャンマー　震災から半年を振り返る　チラシ・報告書」のとおり。

3.「International Festival HIH EXPO 2025」について　（資料 4 ）
標記に関し、資料 4 のチラシのとおり 2025 年 11 月 15 日（土）に兵庫国際交流会館にて開催した。詳細は第 4 回委員会にて報告予定。

Ⅲ．連絡・調整事項

1．2025 年度の国際交流委員会の開催予定と主な議題について
第 4 回委員会（2 月）：2026 年度事業計画・予算（案）について
第 5 回委員会（3 月）：2025 年度事業報告・決算（案）について

以上

＜資料一覧＞
【審議事項 1】資料 1-1：事業委員会における 2025 年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成について（依頼）
【審議事項 1】資料 1-2：2025 年度 国際交流委員会事業 自己評価（案）
【報告事項 1】資料 2：第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム　報告書
【報告事項 2】資料 3：ミャンマー　震災から半年を振り返る　チラシ・報告書
【報告事項 3】資料 4：International Festival HIH EXPO 2025　チラシ

2025年11月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
　事業委員会　委員長　各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長　森　康俊

事業委員会における2025年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成について（依頼）

拝啓　晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施いただきました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたます。

敬具

記

１．各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2025年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出
2025年度事業計画（添付1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12月4日（木）正午

２．今後のスケジュール

（１）ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12月
（２）第9回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12月
（３）第7回理事会による事業改善提案の審議：1月
（４）各事業委員会へのフィードバックと2026年度事業計画・予算提出依頼：1月
（５）第11回企画運営員会にて2026年度事業計画・予算検討：2月
（６）第8回理事会による2026年度事業計画・予算審議：3月
（７）ひょうご産官学連携協議会にて、2026年度事業計画・予算審議：3月

（添付書類）
・添付1　　2025年度　事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：田頭・松岡）
電話：078-271-0233　メール：kanri@consortium-hyogo.jp

【2025年度　国際交流委員会　事業計画】

○目的　　「国際都市神戸」を有する兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟するコンソーシアムとして、グローバル人材育成を目指した事業を展開する。

○委員校
（全：26校）

委員長校：兵庫県立大学、副委員長校：神戸市外国語大学
委 員 校：明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、関西学院短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭大学、神戸女学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、流通科学大学

○中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標/予算等

課題及び期待される効果	取組	達成目標	活動指標	予算（千円）
課題⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進 1. 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施 ・企画チームにおいて学生が主体的に学ぶことによる行動変容や、大学連携・産官学連携による留学生支援の新たな課題とニーズへの取組促進、地域や企業へ高度外国人材としての留学生の理解促進等の効果が期待される。 ・日本人学生や地域の高校生等の海外機運醸成、留学促進等、グローバル人材の育成が期待される。 ・留学生が地域で活躍することや、外国人への防災教育等の実施を通して、多文化共生社会の地域における拠点となることが期待される。	1.兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数2500名以上/5年	参加者数 500名以上/年	9,625 （受託事業収入）
課題⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進 2. 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進 ・各加盟校の強みや特徴を活かした国際交流プログラムを加盟校に開放することで、自学では得ることができない学びの経験とネットワークの構築の機会を学生に提供でき、加盟校の学生の学びが深まり、人脈が広がることが期待される。 ・加盟校が抱える国際交流の課題を加盟校間で共有し、解決に向けたプログラムを実施することで、加盟校全体の国際交流の課題解消、多文化共生社会で活躍する学生の育成に繋がる効果が期待される。	2.加盟校の国際交流プログラムとの連携促進			
	①学生海外派遣プログラム ②事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②プログラム数10件以上/5年	プログラム数 2件/年	50

【2025年度　国際交流委員会　事業計画(案）事業計画（⑤取組1）】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施

計画（4月記載）	自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
【日本学生支援機構受託事業】 ＜兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業＞ (1)国際的視野を持ち、国際社会で活躍できる人材の育成 ・多国籍企画チーム「Team G-Navi」の活動を実施 ・ファシリテーションやSNS等の研修 ［各講座10～15名程］ (2)高度外国人材としての外国人留学生の日本定着に向けた取組 ①生活の支援 ア：防災教育の実施 ［年1回以上、30名～100名］ イ：大阪出入国在留管理局神戸支局による在留資格の相談会の開催 ウ：生活相談や医療相談機関の案内 ②外国人留学生を活用した国際理解教育事業 ア：地域連携プログラム「英語村」 ［年3回以上、各20人～50人］ イ：大学との連携による共同事業 ［年1回4コマ程度実施、各20名～70名］ ウ：兵庫国際交流会館との連携による交流研究発表会の参加勧奨、 HIH寮祭（仮）などの実施 ［各年1回、 各20～100名］ ③外国人留学生のキャリアサポート事業 日本企業と交流する機会や日本特有の就職活動、企業文化、ビジネスマナーを学ぶ機会の提供 ［5回以上開催、各30名～100名］ (3)多文化共生社会の実現を推進する事業 「Nada Global Village(NGV)」の実施 ［年8回以上開催、 各20名～300名程度］ (4)情報発信事業と支援者間ネットワーク体制の強化 ［毎年6回以上開催］	【活動内容】 (1)国際的視野を持ち、国際社会で活躍できる人材の育成 ・多国籍企画チーム「Team G-Navi」の活動を実施　計10回実施　64名 ・ファシリテーションやSNS等の研修　2/10実施予定 (2)高度外国人材としての外国人留学生の日本定着に向けた取組 ①生活の支援 ア：防災教育の実施　計4回実施（6/7、7/6、9/6、9/20）67名 イ：大阪出入国在留管理局神戸支局による在留資格の相談会の開催 計3回 ②外国人留学生を活用した国際理解教育事業 ア：地域連携プログラム「英語村」計2回実施 English Village International Festival（7/7）47名 English Village in HIMEJI(8/21～8/22）30名 イ：大学との連携による共同事業　1回実施 ミャンマー　震災から半年を振り返る（10/3）72名 ウ：兵庫国際交流会館との連携による交流研究発表会の参加勧奨、 International Festival HIH EXPO 2025などの実施　11月15日実施 ③外国人留学生のキャリアサポート事業　計5回実施 ひょうご留学生インターンシップ　ガイダンス　（6/3）14名 ひょうご留学生インターンシップ　交流会（6/7）22名 Let’s Go-Setsu!ガイダンス（6/25）　37名 Let’s Go-Setsu!外国人留学生合同説明会（6/25）　25名 ひょうご留学生インターンシップ　報告会（9/20）　17名 (3)多文化共生社会の実現を推進する事業　計5回実施 NGV88 Visiting SORAKUEN GARDEN（4/20）31名 NGV89 Socie-tea 新歓イベント（5/24）25名 NGV90 Socie-tea Let’s make Cold Brew Green Tea（7/27）16名 NGV91 CLUB GEORDIE フレコン＆Exercises！（8/8）33名 NGV96 国際協力・交流機関　職場体験リレー（9/6）10名 (4)情報発信事業と支援者間ネットワーク体制の強化 第1回国際交流委員会　（4/30）19名 国際交流委員会と4者協定メンバーの交流会（4/30）　21名 4者協定連絡会議（5/13）9名 インバウンドセミナー　（8/7）　52名 【自己評価】 「ミャンマー　震災から半年を振り返る」は、国際交流委員会からの発信をきっかけに、複数の加盟校で一つの企画を共催することができた。ミャンマー人留学生による「日本のみなさんに、母国の災害へ目を向けてほしい」という思いのこもったプレゼンテーションに多くの反響があった。また、従来は9月、10月に集中していた企画を分散すると同時に、11月15日のInternational Festival HIH EXPO 2025」に集約できるものをまとめることで、事業の効率化と、大学や関係機関との連携充実を目指した。留学生による出展だけでなく運営側にも留学生の自主的な参加を促し、大学の枠を超えて、多くの課題を日本人学生と一緒に乗り越える経験を共有した。	
達成目標に対する実績 【達成目標】 ①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80％以上（期間中2回測定） ②参加者数2500名以上/5年	①100％　②6,173名/4年(2025.10.31現在)	
活動指標に対する実績 【活動指標】参加者数　500名以上/年	611名/年(2025.10.31現在)	
自己評価基準：対到達目標※	4	
自己評価基準：対継続性※	4	

事業収支	収入	9,625,000円	支出	4,944,427円	収支	4,680,573円	支出		収支	

理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）

※自己評価基準：対到達目標	４：当初計画を上回って達成　３：当初計画を達成 ２：当初計画をやや下回った　１：当初計画を下回った	※自己評価基準：対継続性	４：本プログラムは継続すべき　３：本プログラムは継続しても良い ２：本プログラムの継続には改善が必要　１：本プログラムは中止すべき

【2025年度　国際交流委員会　事業計画(案）事業計画（⑤取組2）】加盟校の国際交流プログラムと連携促進

計画（4月記載）	自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
(1)学生海外派遣プログラム　神戸常盤大学 【ネパール　医療検査コース】 日本と比較して医療施設や保健施設が整っていないネパール。 文化的、社会的に全く異なる国を訪問し自らの目で見て体で感じ、帰国後報告会とディスカッションを通して、医療に対する国際感覚を高めることができるプログラム。 ※単位互換プログラム該当 ※参加費用は為替レートによって変動する場合あり [実施期間] 2025年9月中旬 10日間（予定） [参加費用] 25－30 万円程度（22万円：2014年実績） 【カナダ　看護コース】 今しかできない経験を。世界を知る、広がる可能性。 ※単位互換プログラム該当 ※参加費用は為替レートによって変動する場合あり [実施期間] 2025年8月9日（土）～ 8月20日（水） [参加費用] 35-45 万円程度（航空運賃、宿泊費、研修費、食事代、現地での交通費等含む） (2)学生海外派遣プログラム　兵庫大学 【Experiential Language & Culture Learning Program in Hawaii】 ハワイパシフィック大学と連携して実施する、語学・異文化体験を中心とした短期研修。 同大学より参加者全員に終了証（Certificate of Completion）が発行される。 ※単位互換プログラム該当なし [実施時期] 2026年3月1日（日）～ 3月10日（火） (3)各加盟校の強み・特徴を活かした国際交流プログラムの加盟校への開放で、以下の効果が期待されるプログラム 〇自学では得ることができない学びの経験とネットワーク構築の機会を学生に提供でき、加盟校の学生の学びが深まり、幅が広がることが期待されるプログラム 〇加盟校が抱える国際交流の課題を加盟校間で共有し、解決に向けたプログラムを実施することで、加盟校全体の国際交流の課題解消、多文化共生社会で活躍する学生の育成に繋がる効果が期待されるプログラム	【活動内容】 （1）学生海外派遣プログラム　神戸常盤大学 ネパール　医療検査コース　（実施せず） カナダ　看護コース　（24名、うち1名神戸市看護大学）(8/9～8/20) （2）学生海外派遣プログラム　兵庫大学　（延期決定） （3）防災カード開発企画　神戸学院大学　全5回のうち、4回実施 （6/7、7/6、9/6、9/20） 甲南女子大学Global Citizenship Program 11/15にInternational Festival HIH EXPO2025に出展、また12/3に ディスカッションプログラムを実施予定 神戸市外国語大学、神戸市看護大学、流通科学大学との連携プログラム ミャンマー　震災から半年を振り返る　（10/3） 【自己評価】 学生海外派遣プログラムについて、物価の影響等、学生が集まりにくい状況も考慮し、より学生にとって魅力的なプログラムを加盟校とともに作り出す必要がある。 一方で神戸学院大学との防災カード開発企画、甲南女子大学のGCP履修生による、International Festival HIH EXPO2025出展では、大学間の枠のみならず地域との関わりにも広がり、成果が期待できる。3大学の連携が叶ったミャンマー地震支援企画では多くの教職員の協力・参加があり、それぞれの加盟校の強みを活かし、共有できるプログラムとなった。	
達成目標に対する実績 **【達成目標】** **①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80％以上（期間中2回測定）** **②プログラム数10件以上/5年**	①100％　②16件/4年(2025.10.31現在)	
活動指標に対する実績 **【活動指標】プログラム数　2件/年**	5件/年(2025.10.31現在)	
自己評価基準：対到達目標※	4	
自己評価基準：対継続性※	3	

事業収支	収入	50,000円	支出	8,800円	収支	41,200円	支出		収支	

理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）

※自己評価基準：対到達目標	4：当初計画を上回って達成　3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った　1：当初計画を下回った	※自己評価基準：対継続性	4：本プログラムは継続すべき　3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要　1：本プログラムは中止すべき

The Consortium of Universities in Hyogo CUH

1 開会挨拶 シンポジウム①

2 シンポジウム② 情報交換会

3 ポスターセッション・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

第22回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム 報告書

2025.8.30㊏-31㊐

兵庫県開催

会場：神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス

大学コンソーシアムひょうご神戸枠 計331名

- 加盟校の教職員 24校146名
- 加盟校学生 12大学74名
- 企業 33社59名
- 自治体 10自治体27名
- 一般 8名
- コンソ職員 17名

他エリアからの参加 計130名

- 大学教職員 79名
- 学生 10名
- 企業 12名
- 自治体6名
- コンソ職員23名

参加者合計 461名

- シンポジウム 334名
- 情報交換会 241名
- 分科会 131名
- SDワークショップ 58名
- 「ライフロングキャリア」共創セッション 52名

共催

全国大学コンソーシアム協議会、
一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

協力

神戸学院大学（会場校）

後援

文部科学省 / 一般社団法人国立大学協会 / 一般社団法人公立大学協会 / 一般社団法人日本私立大学連盟 / 日本私立大学協会 / 全国公立短期大学協会 / 日本私立短期大学協会 / 全国知事会 / 朝日新聞社 / 毎日新聞社 / 読売新聞社 / 日本経済新聞社 大阪本社 / 一般社団法人共同通信社 / 兵庫県 / 神戸市 / 神戸新聞社 / 神戸商工会議所 / 一般社団法人兵庫県経営者協会

The Consortium of Universities in Hyogo CUH

テーマ

激変する将来社会を切り拓く新たな人材の育成にむけて

～不易流行で考える大学間連携と産官学協働～

1 開会挨拶／シンポジウム①

ご挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸は、2006年に「県下すべての大学によるすべての大学のための」組織として設立され、本年で20年目を迎える。国際性を軸に留学生インターンシップや相談窓口等を継続しており、東日本大震災復興支援や「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」による防災啓発にも取り組む。少子化やAIの進展等、変化の大きい環境下で、人材育成には産学官協働が不可欠であり、教育の本質を守りつつ革新を取り入れる「不易流行」の姿勢が求められる。本フォーラムは、大学間連携の役割を見つめ直し、多様な立場から意見交換を行う機会として開催する。

フォーラム 開会挨拶
大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 森 康俊 氏
（関西学院大学 学長）

フォーラム 開会挨拶
兵庫県副知事
服部 洋平 氏

フォーラム 開会挨拶
全国大学コンソーシアム協議会
代表幹事 小原 克博 氏
（大学コンソーシアム京都 理事長、同志社大学 学長）

大学コンソーシアム京都
専務理事、事務局長
小林 慎一 氏（代読）

フォーラム 閉会挨拶
全国大学コンソーシアム協議会
代表幹事 川野 祐二 氏
（エリザベト音楽大学 理事長・学長）

情報交換会 開会挨拶
大学コンソーシアムひょうご神戸
理事 備酒 伸彦 氏
（神戸学院大学 学長）

情報交換会 乾杯挨拶
大学コンソーシアムひょうご神戸
副理事長 藤澤 正人 氏
（神戸大学 学長）

シンポジウム①話題提供

テーマ　大学間連携と地域共創
～社会変革期におけるコンソーシアムの可能性～

濱名理事から冒頭、中教審「知の総和」答申で、大学間連携の必要性が高まっており、大学を「地域課題解決に資する知の拠点」と位置づけ、地方自治体や産業界との連携による共創の場となることが求められているとの説明がありました。

吉見先生からは「人口減少とＡＩ化のなかの大学の未来」というテーマで、ＡＩによる「知の総和」答申の分析の披露から、日本の大学の置かれている危機的状況、教育の質向上が不可欠な状況と、そのために必要な大学改革、文理融合ではない文理複眼教育の姿、リカレント教育の本質化のための高等教育の転換、最後に今後の大学のミッションとして地球人を育成するために、大学と地域のあるべき姿等、多くの示唆に富んだ話題提供がありました。

続いて岡田氏からは、ご自身の事業承継と新たな事業創出における経験を通じた、産学官連携の可能性と課題についてお話があり、次に島藤氏からは、企業における人材育成の現状紹介と、大学が地域、企業と連携して提供する新たなリカレント教育モデルについて提案がありました。

最後に登壇した本荘氏からは、立ち上げ時から関わってこられた「大学コンソーシアムひょうご神戸」について、いくつかのターニングポイントとご自身の経験を紹介され、コンソーシアムのあるべき姿についてお話いただきました。

登壇者

日本テクノロジーソリューション株式会社
代表取締役社長 岡田 耕治氏

エクスアールジョン株式会社
代表取締役 島藤 真澄氏

國學院大學 観光まちづくり学部 教授
東京大学 名誉教授
吉見 俊哉氏

関西学院大学
学生活動支援機構事務部 部長 本荘 雅章氏

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事（関西国際大学 学長）濱名 篤氏

2 シンポジウム②・情報交換会

シンポジウム② ディスカッション

まず、質疑応答では、日本の高等教育が欧米キャッチアップ型で形成されてきたことの問題点や、AIへの問題認識とAIの限界についてのお話がありました。さらに、大学教育においては学生が「AIより自分自身の回答が正しい」と思える論争力や経験力の育成が重要であるとの指摘がありました。続いて、自治体・大学・産業界が教育について議論する際には、その地域の未来を見据えたビジョンが必要ではないかとのお話がありました。

その後の意見交換では、市場原理主義の行き着いた結果としての東京一極集中（東京ブラックホール論）に関する話題が提供され、これを中心に議論が進行しました。大学と産業界の連携において、コンソーシアムは、どのようなストーリーを紡ぎ出せるのか、また、どのように大学と産業界との時間軸の違いを仲立ちするのかについての言及がありました。さらに、産業界や自治体と大学を結ぶコンソーシアムについては、主体性をどこに置くのかや、アカデミックとしての価値をコンソーシアムが提供してほしいとの意見が出ました。地域と大学間連携については、持続可能性が重要であり、兵庫県を始め地方にはそういった意味での価値があること、そしてコンソーシアムと企業連携には、地域の共通課題の解決に向けて共創を意識することが重要であることが再確認されました。

アンケートから

「AIとの付き合い方」や「これからの大学コンソーシアムの役割」等、有識者の多様な視点に触れられたことが大きな学びとなったとの声が多く寄せられた。特に、吉見先生による「大学は人生で3度通う場である」という提起や、「学生の潜在力をどう伸ばすか」という問いかけは、大学の存在意義を改めて考える契機となった。また、AIを盲信するのではなく、人間の知とどう共存させるかという視点も印象に残ったとの意見が多く見られた。

さらに、企業経営者から語られた「早い段階でジャンルを決めず、まず挑戦してみる姿勢」「スピード以外の軸で物事をとらえる重要性」等は、学生教育や大学運営にも示唆を与える内容として高く評価された。

そのほか、「産官学が交わり新たな価値を生み出すことの意義」や、「大学間連携の今後の方向性を深く考える機会となった」という声も寄せられ、大学・企業・行政の立場を越えて交流できたこと自体が、今後の活動の糧になるとの感想が目立った。全体を通じて、登壇者の知見や多角的な議論は「参考になった」「自団体の取組に活かしたい」と前向きに受け止められており、シンポジウムは大学の未来と社会との接点を考える有意義な場として高い評価を得た。

情報交換会

全国から集まった大学・コンソーシアム関係者や企業、地方自治体の皆さまを迎えた立食形式の情報交換会は、鏡開きで華やかに開幕。続いて、灘の酒リブランディングに取り組んでいる神戸学院大学の学生が乾杯用の日本酒を配布し、会場の一体感を高めました。

兵庫に根差した企業によるブース出展等では、地元ならではの料理や飲料が振る舞われ、参加者は味覚を楽しみながら交流を深めました。ポスターセッションや学生司会によるレクリエーションも加わり、和やかな雰囲気の中、交流を深める貴重なひとときとなりました。

アンケートから

様々な気づき、出会いがあり、有意義かつ楽しい場であった。コンソーシアムは大きな可能性があり、大学、企業、自治体が共にどう活用していくかが問われている。地域の持続可能性を確保する上で欠かせないと感じた。

情報交換会では沢山の大学職員、企業の方とお会いし、留学生支援のネットワークを構築できた。

3 ポスターセッション・パネル展示

1日目　ポスターセッション

各大学コンソーシアムが主体となった教育連携や地域貢献の取組を11団体が紹介。大学関係者に加え企業や学生等多くの方々が来場し、展示内容をじっくり見学するとともに活発に意見交換や情報共有を行いました。各コンソーシアムの先進的な事例や、創意工夫に富む多様な活動に触れる貴重な機会となりました。

【出展団体】公益財団法人 大学コンソーシアム京都、公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム、大学コンソーシアム八王子、大学コンソーシアムやまがた、いわて高等教育コンソーシアム、一般社団法人 教育ネットワーク中国、一般社団法人 高等教育コンソーシアム宮崎、公益社団法人 大学コンソーシアム石川、大学コンソーシアム岡山、一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸、特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

アンケートから

時間が長く設定されていたので、他エリアのコンソの方々とじっくりお話をすることで、他のコンソの活動方針の多様さ等勉強することができた。連携の可能性も感じられ、大変有意義だった。

多くの大学関係者にこのようなフォーラムに触れて新しい気づきが生まれるよう、私も大学や自分のコンソーシアムに戻って発信する。全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの価値の高さを社会に向けて発信をお願いしたい。

パネル展示

展示テーマ　**兵庫から発信する大学間連携や産官学連携**

大学コンソーシアムひょうご神戸に加盟する15校23ブースが「大学間連携」「産官学連携」「『震災30年』阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学の活動について」の3テーマにて発信。コアタイムには多くの来場者が足を止め、パネルを読み込みながら議論や質問を交わす姿が見られました。学生も積極的に説明に立ち、参加者の関心を惹きつける姿勢が印象的でした。　※地域活性化に資する人材育成を目指す、学生交流委員会事業として実施。

【出展大学・団体】明石工業高等専門学校、大手前大学、関西国際大学、関西学院大学、甲南大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、神戸親和大学、兵庫大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学、一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

アンケートから

震災30年を迎えて兵庫県、神戸の大学が災害の学びと啓発活動を続けておられることに感銘を受けた。地震災害は悲劇だが、地域に住まう人々の人的資本の価値を問う試練なのだと感じた。

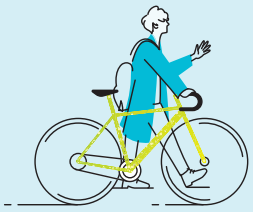
各大学での取り組みがわかりやすくまとめられていて、地域共創科目やサービスラーニング科目等とても興味深かった。また解説学生の、熱心で丁寧な様子が印象的だった。本学のオープンキャンパス等の発表の場の参考にしたい。

兵庫県からの受託事業

～若者による「震災の教訓をつなぐプロジェクト」～

阪神・淡路大震災から30年。あの日の教訓を次世代へとつなぐため、震災を知らない世代の学生たちが、取材や調査を重ね、防災・減災啓発の動画を企画・制作。地域社会や全国に向けて発信しています。

4 分科会



第1分科会　公益財団法人大学コンソーシアム京都

産官学オール京都での留学生誘致の推進
～留学生の定着に向けて～

コーディネーターの今西氏より、留学生政策の推移と大学コンソーシアム京都の海外留学派遣プログラムの実績が紹介されました。続いて京都市の上田氏より、京都市の大学、学生数、留学生数等に関する状況と、留学生受け入れに関する施策についてお話がありました。次に龍谷大学の笠森氏より留学生就職支援と留学生の実情について報告があり、その後は、留学生を地域で受け入れるための課題や取り組み策、留学生の就職支援等について質疑応答が行われました。

アンケートから

総じて、「留学生」と一括りにするのではなく、個々人の文化的背景や諸事情に配慮した支援が必要であると再確認できた。これは、外国人留学生に限らず、学生支援の観点からも共通する内容である。

当市においては、技能実習生による労働力の確保しかできていないが、高度人材の確保は今後の課題となるので大いに役に立った。

第2分科会　一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎

共創で描くリカレント教育の未来
～共に学び・共に地域を創る場をどのようにして構築するか～

コーディネーターの中山氏より、宮崎県内の高等教育機関すべてが参加するCOC+R事業の概要とリカレント教育の現状が紹介されました。続いて宇都宮大学の佐々木先生より、リカレント教育の歴史的背景と再定義、またリカレントとリスキリングの相互補完性等について話題提供がありました。次に全国初の大学等連携推進法人が認定された山梨県立大学の杉山学長補佐より、「地域連携プラットフォーム」が提供する教育プログラムに地域各機関が関与する等の特徴について説明がありました。（株）リンクアンドモチベーションの樫原氏からは、リカレント教育が企業にもたらすメリットと実施の際に留意すべきポイントについてお話がありました。その後、リカレント教育のアウトカム、オンライン教育の活用等のトピックで質疑応答がなされました。

アンケートから

リカレント教育の鍵はアンラーニングであり、学生と社会人が共に学び合う場が重要になる。教育を教えることと捉える見方からの脱却が不可欠だと感じた。教育に対しての考え方が変わった。

樫原さんの「光合成」というワードが大変しっくりきました。また、どこを動かすとどうなるのか。誰がどう思っているのかなど、たいへん参考になった。

第3分科会
一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

【TKK3大学連携事業 15周年企画】
阪神・淡路大震災から30年
「若者と考える 被災地支援と語り継ぎのチカラ」

TKK（東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学）3大学連携プロジェクトとして、防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の取り組みが紹介されたのち、TKK3大学に加えて金沢大学、熊本学園大学の5名の学生より、防災・減災・ボランティアに関するそれぞれの活動について発表がありました。その後の意見交換では、学生が防災等の活動へ参加することへの意義や期待、大学が学生の活動をどのように支援できるか、またこれらの活動を学生教育にどのように繋げていくかについて議論されました。

アンケートから

学生の活動報告内容が、今後の業務・学生支援のために有益であったと思う。

他大学と連携して被災地を支援する仕組みがあること、実際に活動した学生の話を聞けたことが、とてもよかった。この活動に参加できるよう加盟校に働きかける動きを取りたい。

5 学生の活躍

学生ステージ

流通科学大学の外国人留学生8名が、ミャンマー舞踊「ダジャンの踊り」を披露。ミャンマーのお正月（ダジャン祭）を祝い、清め・再生・豊穣・喜びを象徴する、華やかで躍動感ある舞が会場を魅了しました！

芦屋大学の外国人留学生2名によるステージでは、まず、中国の伝統楽器「二胡」で「戦場のメリークリスマス」と「茉莉花」が奏でられました。続いて、イスラム教の聖典コーランの詠唱が加わり、重厚で清澄な響きが広がるひとときとなり、参加者は異文化の奥行きを実感しました。

※グローバルな教育支援を目指す、国際交流委員会事業として実施。

学生司会

加盟校の放送部学生6名が会の進行を担いました。シンポジウムでは、緊張しつつも堂々と司会を務め、会場は温かく華やいだ雰囲気に包まれました。さらに情報交換会では、進行だけでなくレクリエーションとして「関西弁講座」を企画し、交流の場を盛り上げました。

午前中には、2プログラムも実施！

大学事務職員のためのSDワークショップ

甲南女子大学との共催にて「大学事務職員のためのSDワークショップ」が開催され、加盟校事務職員や学生ら約40名が参加。このワークショップは甲南女子大学が進める「全員発揮型のリーダーシップ」教育と連携して実施。参加者は自らが直面する業務課題を題材に、学生アクションラーニングコーチの進行のもと、質問中心の対話を通じて課題の本質を探り、解決のための行動計画を立案しました。グループごとのセッション後には全体共有・振り返りが行われ、さらに昼食をとりながらネットワーキングの機会も設けられました。

参加者からは「『質問会議』という新たな課題解決手法を学べた」「目の前の課題の根本的な原因に気づけた」「職員同士で業務の課題について共有し、アドバイスし合える貴重な時間となった」といった声が寄せられ、日々の業務に活かせる気づきと人的ネットワークを得る有意義な機会となりました。

産・官・学でつなぐ「ライフロングキャリア」共創セッション

産官学から約50名が参加し、兵庫県における若者の県外流出と地元定着の課題を背景に、キャリア支援の可能性を探るセッションを開催しました。第1部では、発達障害やグレーゾーンの若者に焦点を当て、多様性採用と支援の在り方を共有し、ニューロダイバーシティの視点から誰もが力を発揮できる社会への理解を促進しました。第2部では、キャリアセンターによるリカレント教育の事例を紹介し、卒業後支援と地元定着、地域ブランディングへの展開を検討しました。活発な意見交換を通じて産官学の連携機運が高まり、支援モデル構築や雇用環境改善に向けた実践的ヒントが得られました。

参加者からは「発達障害やグレーゾーンへの理解が深まった」「学生のリカレントを考える機会となった」「異なる立場の意見交換が有意義だった」との声が寄せられました。

一般社団法人
大学コンソーシアムひょうご神戸

〒651-0072兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8 兵庫国際交流会館1F
■阪神「岩屋」駅:徒歩3分 ■JR「灘」駅:徒歩6分 ■阪急「王子公園」駅:徒歩10分
<受付時間>月～金曜 9：00 - 17：00
078-271-0233 078-271-0244
info@consortium-hyogo.jp
HP

G-Navi JASSO commissioned project to promote international exchange at HIH

資料3

対面 オンライン 同時開催!!

MYANMAR

震災から半年を振り返る

【オンライン登壇（予定）】国連移住機関
UN International Organization for Migration : IOM
駐ミャンマー代表　望月　大平氏
（都合により、動画メッセージのみとなる場合がございます。）

慶應義塾大学卒業、米シラキューズ大学行政大学院修了（国際関係学修士）。NGO職員や外務省在外公館専門調査員を経て、JPO試験に合格。IOMジンバブエ事務所での勤務、ソマリア、イラクでの緊急人道支援、ジュネーブ本部での政策調整業務、駐日代表を経て、2025年８月より現職。

もっと知りたいミャンマーのこと

ミャンマーで起きた地震

2025年3月28日、ミャンマー中部、第2の都市マンダレー近くでマグニチュード7.7の大きな地震がありました。被害状況は死亡者3,000人以上、負傷者4,500人以上、行方不明者350人以上（4月7日時点）、建物の被害は推定４万棟以上。

この企画では、「ミャンマーってどんな国？」「災害時、自分にできることは何だろう？」という問いを出発点に、現地の様子や文化をまず知ること、地震被害を"自分ごと"として考え、行動につなげることを目的としています。ミャンマーから日本に学びに来ている多くの留学生から話を聞き、対話を通して、今自分に何ができるのか、探してみませんか。

ーーともに知り、ともに動くーー。

あなたの一歩が、被災地への支援とつながり、多文化共生社会を形作る力になります。

2025年10月3日（金）

参加費無料 4:00pm - 6:00pm

使用言語：日本語（一部英語）定員：100名

詳細HP

プログラム

第1部：ミャンマーの今を知る

★流通科学大学　ミャンマー人留学生によるプレゼンテーション
★国連移住機関（IOM）駐ミャンマー代表　望月太平氏による現地レポート

第2部：私たちが動く

★神戸市看護大学　神原教授による現地レポート・看護の視点からのアドバイス
★京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程
Zar Zar Win Thein（ミャンマー）さんより発表
ミャンマー・ザガイン地域における地震後の地域住民を対象とした心理的支援と社会経済的評価

★学生・教職員・参加者によるクロストーク

ミャンマーのお菓子ももらえます

ファシリテーター

中嶋　圭介（なかしま　けいすけ）
神戸市外国語大学国際関係学科准教授
米国戦略国際問題研究所(CSIS)地球高齢化部での勤務を経て、2011年より現職。専門は、人口減少・人口高齢化にかかる公共政策課題。

神原　咲子（かんばら　さきこ）
神戸市看護大学 基盤看護学 災害看護・国際看護学 教授
高知県立大学教授等を経て、インドネシア・ウダヤナ大学客員教授、（一社）EpiNurse代表理事。研究テーマは、災害リスクに対する認識を用いた合意形成と減災ケアの創出。

申込・お問合せはこちら

対面・オンラインのハイブリッド開催です。お申込み時に「参加方法」で「会場参加」「オンライン参加」のいずれかをご選択ください。

会場：流通科学大学

詳細は申込後にメールでご案内します

主催：大学コンソーシアムひょうご神戸
共催：神戸市外国語大学
神戸市看護大学
流通科学大学

県下すべての大学によるすべての大学のための
一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8 兵庫国際交流会館 1F
Tel 078-271-0233　Fax 078-271-0244
Email info@consortium-hyogo.jp　HP https://consortium-hyogo.jp/

プログラム実施報告書

プログラム名	2(2)イ２　ミャンマー　震災から半年を振り返る		
日時	令和７年 10 月３日（金）16:00～18：00		
開催場所	流通科学大学 講義棟Ⅵ 6302 教室（対面）/　Zoom（Web 会議システム）		
内容・（講師）	神戸市外国語大学国際関係学科准教授　中嶋圭介氏 神戸市看護大学 基盤看護学 災害看護・国際看護学 教授　神原咲子氏 国連移住機関（IOM）駐ミャンマー代表　望月大平氏 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程 ザー　ザー　ウィン　ティン氏 流通科学大学学生 プー　プイン　キー　ピュー氏、リン　ミャッ　モン　ウー氏 チョー　ジン　ハン氏 スー　ヤダナー　キョウ氏 ピェー　ピェー　テー　カイン氏		
対象	大学・大学院生（外国人留学生・日本人学生）・教職員・一般		
主催	大学コンソーシアムひょうご神戸		
共催	神戸市看護大学・神戸市外国語大学・流通科学大学		
参加者	計　76 名 延べ人数	内訳	教職員　　９校　31 名
			大学生　９校２ヵ国 25 名 （外国人留学生：４校１カ国９名、日本人学生：７校 16 名）
			一般　　３ヵ国 16 名
			コンソスタッフ ４名

内容詳細

【開催経緯】

当会は、2025 年３月 28 日に発生したミャンマー中部地震から半年を迎えるにあたり、被災地の現状と復興の課題を共有し、学生・大学・地域がそれぞれの立場でできる支援を考える場として企画した。当コンソの加盟校には、流通科学大学の約 100 名をはじめ、ミャンマー人留学生が増加しており、家族が被災した学生もいる中、関心を持ち続け、学びたいことを学びたい場所で、安心して学べることの尊さを改めて見つめ直す機会とした。

【プログラム】

開会挨拶

第１部　「ミャンマーの「今」を知る」　ファシリテーター　中嶋圭介氏

・ミャンマー人留学生（流通科学大学２年生）によるプレゼンテーション

「私たちが日本に留学した理由」

プー　プイン　キー　ピュー氏　　リン　ミャッ　モン　ウー氏

「地震の現状と、より良い復興に向けて」

チョー　ジン　ハン氏　　スー　ヤダナー　キョウ氏　　ピェー　ピェー　テー　カイン氏

・国連移住機関 IOM 駐ミャンマー代表　望月大平氏による現地レポート

第２部　「私たちが動く」　ファシリテーター　神原咲子氏

・災害看護の視点からのアドバイス

・「ミャンマー・ザガイン地域における地震後の地域住民を対象とした心理的支援と社会経済的評価」

ザー　ザー　ウィン　ティン氏

・参加者とのクロストーク、質疑応答
【各回詳細】
●開会挨拶（当コンソ　慈氏）
共催校への謝意とともに、「震災直後は報道が続いていたが、時間とともにその姿は見えにくくなっている。だからこそ、現地の声に耳を傾ける場が必要である。」と語った。

●趣旨説明（神戸市外国語大学 中嶋圭介氏）
「安心・安全な日常の回復を願って」の言葉とともに、震災の被害規模と長期化する困難に触れ、第 1 部の目的を共通の理解を深めることであると説明した。

●第１部：「ミャンマーの今を知る」
ファシリテーター：中嶋圭介氏
・留学生による発表①：「私たちが日本に留学した理由」
（発表者：プー プイン キーピュー氏、リン ミャッ モン ウー氏）
ミャンマーの地理・文化・宗教構成などの紹介に始まり、日本留学を選んだ理由や、日本とミャンマーの違い（交通、教育、生活習慣など）について、実体験を交えて語った。特に「日本とミャンマーの架け橋になりたい」という将来への展望には、会場から温かい拍手が送られた。

・留学生による発表②：「地震の現状とより良い復興に向けて」
（発表者：ピェー ピェー テー カイン氏、スー ヤダナー キョウ氏、チョー ジン ハン氏）
震災の被害状況（死者 5,000 人以上、負傷者 4,500 人以上、建物被害 4 万棟超）や、半年経っても続く仮設施設での生活、支援の届きにくさなどを報告した。神戸の震災メモリアルパークやルミナリエの事例を挙げながら、「震災から学ぶ観光」の可能性も提案した。
また、大学のワールドフェスティバルで実施した「ダルマ作り体験」や募金活動（¥14,000 寄付）についても紹介。ミャンマー人留学生を含む、学生たちの主体的な取り組みが印象的に残った。

・特別講演：国連移住機関（IOM）駐ミャンマー代表 望月大平氏（オンライン）
望月氏からは、国連移住機関（IOM）の活動概要と地震対応のタイムラインが紹介された。発災直後の緊急支援（現金給付、物資配布、移動診療、心理支援）から、中長期的な復興支援（住宅修繕、医療施設補修、雇用支援等）まで、具体的な取り組みが共有された。
現地の課題として、都市部と郊外の復興格差、国内避難民の多重被災、紛争地への支援困難などが挙げられた。日本政府や企業による支援の重要性と、世界的な人道資金の減少に伴う脆弱層への優先支援の必要性も強調された。

・質疑応答
文化財復旧、耐震基準の違い、長期支援の難しさなどが議論された。日本のような制度化されたボランティア制度はミャンマーには存在しないものの、自発的な支援活動が根強く存在していることなどが紹介された。

●第２部：「私たちが動く」
ファシリテーター：神原咲子氏
・発表：「災害の前後を分けず、いつでも支え合える社会を」と“フェーズフリー”の考え方を紹介し、若者・大学・地域が担う共助の再設計を呼びかけた。

・研究事例発表：ザー　ザー　ウィン　ティン氏
ザガイン出身のザー　ザー　ウィン　ティン氏は、Women Scholar Challenge Project の一環として実施した心理社会的支援（MHPSS）と社会経済調査の取り組みを報告した。宗教・文化への配慮を重視した支援メニュー（呼吸法、ジャーナリング、アート制作等）は、被災者のストレス対処行動の改善に寄与したとのことで、継続的な支援の必要性を熱心に説明された。

・ディスカッション
神原教授のファシリテーションのもと、中嶋氏、望月氏、参加者との対話を行った。実際に災害支援に取り組んでいる参加者との間で、宗教施設・地域組織・ボランティアによる共助の重要性、文化適合性への配慮、都市部と周縁地域の復興格差などが議論された。

【所感及び今後の展開】

学生の熱のこもった発表と、専門家やファシリテーターによる丁寧な解説を通じて、震災の現実と向き合いながら、当コンソとして、大学として、そして個人として、それぞれの立場でできることを改めて考える機会となった。国連移住機関 IOM の望月氏と直接 Zoom をつなげての貴重な対話、また登壇した留学生からの心のこもった発表、ファシリテーター各氏からの専門知識を交えた様々な角度からの投げかけ、いずれをとっても参加者に新たな発見や疑問、ミャンマーへの興味関心をかき立てるものであった。オンライン参加者からも非常に良かったというアンケート結果が多かった。

留学生との協働授業や公開講座を通じた異文化理解、心理社会的支援（MHPSS）やフェーズフリー支援の実践的な連携、そして継続的な啓発活動など、当コンソが取り組めることの広がりを再認識した。学生や教職員が関心を持ち続け、支援に関われるよう、募金活動や国際機関との連携など、支援のかたちを可視化していくことも重要である。学生の発表により会場全体が温かい雰囲気に包まれたことからも明白なように、学生自身が発信者となることで、地域や大学の取り組みに深く連携することができると感じた。

震災をきっかけに生まれたこのような対話と共感を、一過性のものにせず継続していくことが、私たちの責務であると感じる。今後も、当コンソが、地域と留学生と日本人学生をつなぐ役割を果たしていく必要性を、改めて実感した。

当日の写真

資料4

HIH EXPO 2025

yummy

世界の料理屋台

ミャンマー
バングラデシュ
タイ
ブラジル
台湾
ベトナム
フィリピン
ケニア
ギニア
東ティモール
etc..

料理屋台の料理は有料です。
ブース見学、遊びは無料ですが、
一部有料のものもあります。
ステージ観覧は無料です。

学びと体験ブース

さまざまな大学の学生・地域のみなさんによる、おもしろブース
学びと体験がいっぱい！こどもから大人まで、どなたでも楽しめます。

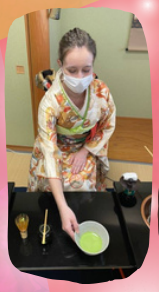
神戸国際大学　防災救命クラブ　DPLS　AED/心肺蘇生講習
甲南女子大学　Global Citizenship Program 日本の遊び屋台
関西学院大学　CLUB GEORDIE　国際交流ゲーム
神戸学院大学　GC学部森下ゼミ　カラービーズキーホルダーワークショップ
神戸学院大学　GC学部森下ゼミ　カレンデュラコンフィチュール　カレンデュラハーブティー
神戸学院大学　BOSAIコミュニケーションカード
兵庫県立大学　SDGsPOST　ステンシルアート＆認証マークビンゴ
神戸大学　灘チャレンジ実行委員会　活動紹介、ミニゲーム
NPO法人Future Code 学生部BYCS　活動紹介・hadanisheaハンドクリームの販売
HIA・JICA・JETRO・CUH共催　国際協力入門セミナー
灘オヤジラボ　灘区観光案内
JICA関西　青年海外協力隊紹介

ヨーロッパの刺繍体験ワークショップ
Let's get to know about Seattle!
似顔絵ブース
大切な服、次の誰かへ。心をつなぐふく服交換会

などなど！

日本文化体験いろいろ

茶道体験　ZONTA CLUB OF PHOENIX KOBE
空手・書道体験　NPO法人ABIC
浴衣着付体験　KOKORO-NET
琴演奏体験　金子先生



留学生と話そう！

兵庫国際交流会館にはたくさんの留学生が住んでいます。皆さんが訪れるのを楽しみにお待ちしています☆
世界各国から集まった留学生と、話してみませんか？この一日で何か国の人と話せるかな？

ステージ

日本人学生・留学生・地域のみなさんによる、渾身のステージ発表。
この日のために練習してきました。みんなで一緒に楽しもう！

和太鼓　甲南大学　甲(きのえ)
ブラスバンド　渚中学校
琴　HIH Koto Club
二胡
クラシックギター
ジャズギター
ヘビメタ
アラビア語の歌
英語落語
南京玉すだれ
ヨーロッパ民族音楽　European folklore music
Let's dance in YUKATA!
ベトナム学生による舞踊　Bonjout Vietnam
インドネシア伝統舞踊　ガンビョン(Gambyong)
Let's try Karate!!

このチラシ掲載の内容は制作時点でのものです。変更の可能性がございますのでご了承ください。